

結～人と人、過去と未来を結ぶ～

むすび屋 弥右エ門 茅葺きプロジェクト 小林 拓真 佐藤 寛子 高松 智哉 戸高 英里子 永田 理紗

概要

プロジェクトの内容と最終目標

私たちは「むすび屋弥右エ門茅葺きプロジェクト」として和歌山県のかつらぎ町志賀という場所で活動しています。その場所は関西国際空港から車で50分という便利な場所にありながら超過疎化が進んでいる、トタン被せの大屋根の古民家が点在する集落です。

私たちは「人と人を結ぶ」をモットーにして活動しています。その茅葺き屋根からたくさんの人々のつながりを結びたい、という思いから小さな倉庫の屋根を茅葺き屋根のおむすび屋にすることを目指しています。

そして私たちの最終目標は人と人がお互いに快く協力し合えるような茅葺き共同体の再生です。今コロナウイルスによって世界が自粛ムードであり、人と人との結びつきが弱くなっている時期です。茅葺きを通して、人と人の結びつきを強め、再認識することができます。

BEFORE



AFTER(イメージ)



茅刈りイベントの開催

和歌山県屈指のススキ野原 生石高原にて

茅葺き屋根のおむすび屋を作るにあたって必要な費用の約4割が材料費、つまり茅束でした。そこで、コスト削減のために自分たちで茅束を集めようと考えました。さらに、茅の地産地消を目指し、和歌山県にあるススキ野原の生石高原で茅刈りを行いました。

また、私たちのモットーである「結」を広げ、より多くの人々に茅葺きの魅力を知ってもらうためにプロジェクト外の方も参加できるようなイベントを開催しました。イベントで得た費用を生石高原を守る維持費として、この景色を持続可能な景観にします。

イベントの開催にあたり、ただの茅刈りだけでなく茅を使ったゲームも企画して参加者が楽しむことのできる工夫もしました。



人と人とのつながり

地域での活動・三期生が繋いだ新たな出会い

2期生の先輩方が行っていた地域の奉仕活動は、3期生である私たちも引き継ぎ、計2回参加させていただきました。また今年度は、地域の婦人会が主催した「志賀女子の会 作品展」にも参加し、今まで交流が少なかった婦人会の方ともお話をすることができました。



活動は志賀地区だけでなく、茨城県つくば市で開催された、日本茅葺き文化協会主催の茅葺きワークショップにもプロジェクト内から2名が参加し、日本茅葺き文化協会の方や、全国各地の茅葺き職人とも繋がる事ができました。



いつもお世話になっている神戸の茅葺き職人、相良育弥さんと、つくばでのワークショップで出会い、初めて私たちの活動に来て下さった宮城の茅葺き職人、沖元太一さんです。

竪穴式の茅葺き屋根の茶室

結門 (ゆいもん)

茅刈りを通し、茅に大きく関心を持ったことをきっかけに、より茅葺きを身近に感じたいという思いが芽生えました。そこで、素人でも比較的簡単にできる小さな茅葺き屋根のモニュメントをつくることにしました。瞑想できるような独立した空間でありながらも、大勢で肩を抱き寄せあうことのできる空間をコンセプトとしています。

この「結門」という名前は、私たちのモットーとおむすび屋の名前から考えました。

材料の調達から、施工まで一からすべて地域の方の協力を得ながら、茅葺き職人の相良さん指導のもと、自分たちの手で完成させました。

茅葺きは生石高原で刈った茅を利用し、骨組みは地域の方の山から取らせていただいた真竹を使用しています。

また、屋根の上部にある芝棟の芝は地域の方のお庭で採らせていただき、ホタルブクロ、ミズヒキ、ヨメナなど志賀地区に根付いた植物を勉強し、植えました。

この結門作りを通し、プロジェクト内だけでなく、大勢の人と結びつきが生まれ、またテレビ取材やラジオのインタビューを通し、たくさんの人々に発信することができました。茅葺きが生み出すコミュニティの可能性を改めて実感しました。

